

小児慢性疾患の精神衛生に関する研究

分担研究者	筑波大学心身障害学系	長 畑 正 道
研究協力者	静岡大学教育学部	新 井 清 三 郎
	慶応大学小児科	秋 山 泰 子
	都立成東児童保健院	石 橋 祝
	みどり学園小児病院	石 川 敬 次 郎
	日本大学小児科	有 泉 基 水
	国立特殊教育総合研究所	永 峯 博

本研究も今年度で3年目を終えることになった。そこで、ここではこれまでの研究の進み方についてその概略を述べて、まとめとすることにする。

1. 異常行動調査表による慢性疾患児の調査

第1年目においては異常行動調査表の検討を行い、両親用と病院、施設用、および教師用を作製した(資料1, 2, 3)。病院、施設用と教師用は質問項目は同じであるが、記入上の注意ならびに全般的判断の記入者が異っている。両親用は前二者とは異なり質問項目がもう少し多くなっている。

第2年目において教師用を用いて小学校児童について実際に教師に記入してもらい、正常対照群のデータを得ると共に、この質問表の使用上の問題点を検討した。この結果とくに使用にあたって問題のないことが明らかとなった。

第3年目である本年度には実際に慢性疾患児について、異常行動調査表による調査を行った。

(1) 大学病院小児科、総合病院小児科における調査

主として外来患者を対象として両親用の調査表を用いて慢性疾患児(てんかん、喘息、腎疾患、心疾患、その他)の異常行動を長畑、有泉らが調査した。この際、各項目のチェックは両親が行い、全般的判断は医師が行った。また対照群として、急性疾患で病院の外来を訪れた患児について両親に同じ調査表にチェックしてもらった。

その結果、正常対照群では平均評価点は3.5点であったのに対し、慢性疾患群では8.8点で明らかに問題が多かった。各疾患別では腎疾患、喘息で平均評価点がやや高く、ついでてんかん、心疾患の順であった。いずれも男児より女児の方に問題が多かった。

慢性疾患の全体的な特徴として、頭痛や腹痛などをよく訴え、食事や睡眠に問題があり、行動上も落ちつきがなく、いらいらとしてすぐカッとなる反面、心配性で孤立的で、こわがりで、気むづかしいといった傾向がみられた。しかし、疾患群別ではこの調査では余り著しい差はみられなかった。

(2) 国立療養所および虚弱児施設に収容されている慢性疾患児の調査

調査表は病院、施設用を用い、チェックしたのは看護婦、保母、児童指導員で、全体的判断は医師が行った。石橋、中塚の研究では慢性疾患は喘息、腎疾患、進行性筋ジストロフィー症であった。慢性疾患群全体の平均評価点は7.3点であったが、各疾患別にかなり差があり、腎疾患が12.1点で最も高く、

喘息は7.1点でこれに次ぎ、筋ジスは2.8点と著しく低かった。また全体として年齢が長ずるに従い平均評価点が下り、6～8才台が10.1点であったのに対し、15～18才は3.6点であった。しかし各疾患別にとくに目立った異常行動というほどのものはなかった。

石川らは、上記の疾患の他にてんかんも調査した。病院の外来患児と異なり、てんかん児の異常行動出現率が高かったことが注目される。

(3) 養護学校教師よりみた慢性疾患入院児の異常行動調査

永峯は気管支喘息、腎疾患、進行性筋ジストロフィー症に対し調査を行った。教師用の調査表を用い、教師が各項目をチェックし、教師が全体的評価を行った。全体の平均評価点はかなり学校によって異なり、1.0点から7.6点にわたっていた。これを各疾患別にみると喘息では男児3.23点、女児2.27点、腎疾患では男児2.50点、女児1.68点、筋ジス（男児のみ）ではやや高く4.24点であった。また10点以上の評価点の割合は全体で8.1%であった。この結果を長畑らの普通小学校児童の成績と比較すると、平均評価点は正常児では男児3.99点、女児1.65点、10点以上のものの割合は全体の7.9%であったのと余り変わらず、養護学校教師からみると、慢性疾患児も普通小学校の子供とそれほど変りがないことが注目された。

2. 慢性疾患児の診療についての小児科医へのアンケート調査

大学病院小児科および総合病院小児科に勤務する40名の小児科医より資料4に示すようなアンケート用紙を送り、その回答を求めた。その結果、大学病院や総合病院の小児科医は慢性疾患児の精神衛生にかなり関心はあるが、具体的にどう子供に接してよいか、まだ手さぐりの状態であることが判った。そして慢性疾患児の精神衛生について機会があれば指導を受けたいという希望がうかがわれた。

3. 慢性疾患児の精神衛生の手引書の作製

この手引書については目下作製中である。その項目ならびに執筆担当者は次のようである。

- (1) 序（長畑正道）
- (2) 子どもの精神発達の理解（新井清三郎）
- (3) 子どもの評価および精神衛生的診断のすすめ方（秋山泰子）
- (4) 親および子どもに対する指導、治療
 - i) 親の指導（長畑正道）
 - ii) 子どもの指導、治療（石橋 祝）
- (5) 各種の慢性疾患児の精神衛生
 - i) てんかん（長畑正道）
 - ii) 喘息（石橋 祝）
 - iii) 腎疾患（石川敬次郎）
 - iv) 心疾患（長畑正道、有泉基水）
 - v) 進行性筋ジストロフィー症（永峯 博）
 - vi) その他（長畑正道）

資料 1

異常行動調査表（両親用）

学校名 _____

患児氏名 _____ 生年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日生

学年（幼小中高 _____ 年）年令 _____ 歳 _____ カ月 性別：男・女

診断名（医師記入） _____

（発病時期：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日，発病よりの経過期間： _____ 年 _____ 月）

記入者氏名 _____（父，母，その他）記入年月日：昭和 _____ 年 _____ 月）

受持医氏名 _____

記 入 上 の 注 意

ご記入いただく際に以下のことにご注意下さい。

- (1)(2)(3)(4)の質問項目についてはお母さんなど患児の日常生活をよく知っている人が記入して下さい。
- 患児氏名，生年月日，学年，年令，診断名，発病時期，経過期間，記入者氏名，受持医氏名を必ず記入して下さい。
- (1)(2)(3)についての回答は右の記入欄のあてはまるところに○（まる）をして下さい。
- (1)(2)(3)の各項目についてはもれなく記入して下さい。
- (2)(3)の“いいえ”についてはそのことに該当しない場合のことです。
 (2)(3)の“ときどき”については特別そう心配するほどではないが，ときどきみられる場合のことです。
 (2)(3)の“よくある”については，よくみられ医師その他の専門家に相談した方がよいのではないかと考えられる場合のことです。
- (4)については該当するときだけお母さんその他家族の方が記入して下さい。該当することがない場合には空欄にして下さい。
- (5)については受持医が記入して下さい。
- (6)については，知能テストを行ったことがある場合最も最近のIQとその検査名および検査年月日を医師が記入して下さい。

(1) 健康上の問題（母親その他家族記入）

項 目	この1年ない	年に数回	1月に1回 以 上	1週に数回
1. 頭痛がある				
2. 腹痛や嘔吐がある				
3. 食欲がない				
4. 夜尿あるいは昼間のおもらしがある				
5. 大便をもらす				
6. かんしゃく発作をおこす				
7. 登校のとき泣き出したり校舎に入るのを嫌がる				
8. 怠けて学校へ行かない				
合 計				

(2) くせ(母親その他家族記入)

	項 目	い い え	ときどき	よくある
1.	話すときに吃る			
2.	舌がよくまわらず、正しく発音ができない (例えば)			
3.	物を盗んだことがある (例えば)			
4.	少食や過食など食事をめぐる問題がある (例えば)			
5.	ねつきが悪かったり夜中に目のさめることがある			
	合 計			

(3) 行動上の問題(母親その他家族記入)

	項 目	い い え	ときどき	よくある
1.	多動で片時もじっとせずよく動きまわる			
2.	そわそわと落ちつきがない			
3.	物をよくこわす			
4.	他の子供とよくケンカする			
5.	他の子供に嫌われる			
6.	心配性である			
7.	孤立的で自分ひとりで物事をする傾向がある			
8.	いらいらとし、すぐカットなる			
9.	気分が沈みがちで、よく涙ぐんだりする			
10.	顔や身体の一部をピクッと動かすくせ(チック)がある			
11.	指しゃぶりがあ			
12.	爪を噛むクセがある			
13.	親のいうことをきかない			
14.	注意が持続しない			
15.	こわがりで、見なれないものを怖れる			
16.	よく文句をいい気むずかしい			
17.	よく嘘をいう			
18.	他の子供をいじめる			
	合 計			

総計

(4) 上記以外の問題行動がありましたら、下の欄にくわしく記入して下さい。(母親その他家族記入)

(5) ただ今、ご記入された患児を全体的に見ると、次のどれにあてはまりますか、受持医の判断を記入して下さい。

1. 全く問題がない。 (医師記入)
2. ほとんど問題がない。
3. 問題がある。
4. 上記 2、3. の場合、それは慢性の病気のためと思いませんか。(はい、いいえ、わからない)

(6) I Qとその検査名および検査年月日を記入して下さい。(医師記入)

I Q ()
 I Q検査年月日 昭和 年 月 日 (テスト名)

資料 2

異常行動調査表（病院、施設用）

病院（施設）名 _____

患児氏名 _____ 生年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日生

学年（幼小中高 _____ 年）年令 _____ 歳 _____ カ月 性別：男・女

診断名（医師記入） _____

（発病時期：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日，発病よりの経過期間： _____ 年 _____ 日）

記入者氏名 _____ （職種： _____ ）記入年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

受持医氏名 _____

記 入 上 の 注 意

ご記入いただく際に以下のことにご注意下さい。

- ①については、受持医の指示により患児の日常生活をよく観察している職員が記入して下さい。
- 患児氏名、生年月日、学年、年令、診断名、発病時期、経過期間、記入者氏名、記入年月日、受持医氏名を必ず記入して下さい。
- ①についての回答は、右の記入欄のあてはまるところにまるをして下さい。
- ①については、1から26までもれなく記入して下さい。
- ①の“いいえ”については、そのことに該当しない場合のことです。
①の“ときどき”については、特別な指導をするほどではないが、ときどきみられる場合のことです。
①の“よくある”については、この問題について個別的に特別な指導をする必要があると考えられる場合のことです。
- ②については、該当するときだけ記入して下さい。該当することがない場合には、空欄にしておいて下さい。
- ③については、受持医が記入して下さい。
- ④については、知能テストを行ったことがある場合、最も最近のIQとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

① 次の項目についてお答え下さい。右の記入欄にまるをして下さい。

	項 目	い い え	ときどき	よくある
1	多動で片時もじっとせず、よく動きまわる。			
2	そわそわと落ちつきがない。			
3	物をよくこわす。			
4	他の子供とよくケンカする。			
5	他の子供に嫌われる。			
6	心配性である。			
7	孤立的で自分ひとりで物事をする傾向がある。			
8	いらいらとし、すぐカッとなる。			
9	気分が沈みがちで、よく涙ぐんだりする。			

	項 目	い い え	ときどき	よくある
10	顔や身体の一部をピクッと動かすくせ（チック）がある。			
11	指しゃぶりをする。			
12	爪を噛むくせがある。			
13	親のいうことをきかない。			
14	注意が持続しない。			
15	こわがりで見なれないものを怖れる。			
16	よく文句をいい気むずかしい。			
17	よく嘘をいう。			
18	他の子供をいじめる。			
19	忘れて学校に行かない。			
20	些細な理由で学校を休みがちである。			
21	1度ならず物を盗んだことがある。			
22	今年になって大便や小便のおもらしをしたことがある。			
23	しばしば身体の痛み（頭痛、腹痛を含む）を訴える。			
24	この1年の間に、登校のとき泣き出したり、校舎の中に入るのを嫌がったことがある。			
25	どもったり、口ごもったりすることがある。			
26	その他の言語障害がある。（例えば			
	合 計			

② 上記以外の問題行動がありましたら、下の欄にくわしく記入して下さい。

③ ただ今、ご記入された患児を全体的に見ると、次のどれにあてはまりますか、受持医の判断を記入して下さい。

1. 全く問題がない。
2. ほとんど問題がない。
3. 問題がある。
4. 上記の 2. 3. の場合、それは慢性の病気のためだと思いますか。（はい、いいえ、わからない）

④ I Qとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

I Q ()

I Q検査年月日 昭和 年 月 日 (テスト名)

資料 3

異常行動調査表（教師用）

児童氏名 _____ 生年月日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日生
 学年 _____ 年令 _____ 才 _____ カ月 性別 男・女
 記入者氏名 _____ 記入年月日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

記 入 上 の 注 意

ご記入いただく際に以下のことにご注意ください。

1. この質問紙は必ず、担任の先生が記入して下さい。
2. 児童氏名、生年月日、学年、年令、記入者氏名、記入年月日を必ず記入して下さい。
3. ①についての回答は、右の記入欄のあてはまるところにまるをして下さい。
4. ①については、1 から26までもれなく記入して下さい。
5. ①の“いいえ”については、そのことに該当しない場合のことです。
 ①の“ときどき”については、専門機関に相談するなど特別な指導をするほどではないが、ときどきみられる場合のことです。
 ①の“よくある”については、この問題について個別的に特別な指導をする必要があると考えられる場合のことです。
6. ②については、該当するときだけ記入して下さい。該当することがない場合には、空欄にしておいて下さい。
7. ③については、必ず記入して下さい。
8. ④については、入学後、知能テストを行ったことがある場合、最も最近のIQとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

① 次の項目についてお答え下さい。右の記入欄にまるをして下さい。

	項 目	い い え	ときどき	よくある
1	多動で片時もじっとせず、よく動きまわる。			
2	そわそわと落ちつきがない。			
3	物をよくこわす。			
4	他の子供とよくケンカする。			
5	他の子供に嫌われる。			
6	心配性である。			
7	孤立的で自分ひとりで物事をする傾向がある。			
8	いらいらとし、すぐカットなる。			
9	気分が沈みがちで、よく涙ぐんだりする。			

	項 目	いいえ	ときどき	よくある
10	顔や身体の一部をピクッと動かすクセ(チック)がある。			
11	指しゃぶりをする。			
12	爪を噛むクセがある。			
13	親のいうことをきかない。			
14	注意が持続しない。			
15	こわがりで見なれないものを怖れる。			
16	よく文句をいい気むづかしい。			
17	よく嘘をいう。			
18	他の子供をいじめる。			
19	怠けて学校に行かない。			
20	些細な理由で学校を休みがちである。			
21	1度ならず物を盗んだことがある。			
22	今年になって学校で大便や小便のおもらしをしたことがある。			
23	しばしば身体の痛み(頭痛、腹痛を含む)を訴える。			
24	今年になって学校に着くと涙ぐんだり、校舎の中に入るのを嫌がったことがある。			
25	どもったり、口ごもったりすることがある。			
26	その他の言語障害がある。			
合 計				

② 上記以外の問題行動がありましたら、下の欄にくわしく記入して下さい。

③ ただ今、ご記入された児童を全体的に見ると、次のどれにあてはまりますか。

1. 全く問題がない。
2. ほとんど問題がない。
3. 問題がある。

④ I Qとその検査名および検査年月日を記入して下さい。

I Q ()

I Q検査年月日 昭和 年 月 日 (テスト名)

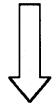
資料 4

慢性疾患児の診療についての小児科医へのアンケート調査表

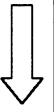
まことに御手数をおかけ致しますが、次の各項目についてお答え下さい。無記名で結構です。

1. 現在主として診療にあたってられる機関は次のうちどこですか。“その他”の場合はその機関の種別を記入してください。(大学病院小児科, 小児病院小児内科, 国立療養所, 虚弱児施設, その他)。
2. 小児科医としての経験年数は()年ですか。
3. 小児科としての専門領域()。
4. 慢性疾患児の病歴聴取にあたり, 子どもの日常生活の状態や親子関係について必ずききますか(はい, ときどき, いいえ)。
5. 入院している慢性疾患児に対して診察だけでなく, 病室やプレールームなどで日常よく話し合ったり, 遊んだりしますか(はい, ときどき, いいえ)
6. 親や子どもの面接技法の理論や実地について指導をうけたことがありますか(はい, 少し, いいえ)。
7. 受持っている慢性疾患児の問題行動で困ったとき, 身近かに相談できる専門家がいますか。
 いいえ
 はい……それは医師(専門:)ですか, 他の職種(職種名:)ですか。
8. これまで慢性疾患児でなくとも, 子どもの発達テストや知能テストを自分で行ったことがありますか。
 いいえ
 はい……それはどんなテストですか(テスト名:)
9. 慢性疾患児の精神衛生についての御意見をお書き下さい。

病院(施設)名 _____



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本研究も今年度で3年目を終えることになった。そこで、ここではこれまでの研究の進み方についてその概略を述べて、まとめとすることにする。